

高山 隼人先生 教授ご就任の祝い

高山 隼人 先生

この度、長崎医療センターOB 高山 隼人先生が長崎大学病院地域医療支援センター（ながさき地域医療人材支援センター）教授に就任されましたので、国病久原会としてお祝いの言葉を述べたいと存じます。

令和4年12月吉日 国病久原会

高山隼人先生、教授への御就任おめでとうございます

高山先生、このたびの長崎大学病院地域医療支援センター教授への御就任、誠におめでとうございます。30年以上前の話になりますが、私と高山先生とは病院官舎に共に暮らしていた時からの家族含めてのお付き合いであり、今回の教授就任を私も大変嬉しく思っています。

高山先生が当院の救命センターで仕事を始められた頃、救命センター専属の救命医は高山だけの時がしばらく続きました。その時に、離島から担送された劇症肝炎の小学生の治療を高山先生とともに関わりました。しかし、医療として肝臓移植が導入される前の時であったことから、従来の方法では、その子を救命することができませんでした。共に悔しい思いをしたことを今も鮮明に覚えています。

2011年の5月、ドクターヘリに関するNHKの特集番組「NHK ディープピープル、フライトドクター」に、日本を代表する3人のフライトドクターが出演されました。そのひとりが高山先生で、テレビ画面に映し出された高山先生の姿とコメントをととても誇らしく思いながら拝聴しました。そして、その後ろ姿を追いかけるようにして多くの後輩達が我々の仲間となりました。140ある国立病院機構病院の中で、ドクターヘリ基地を有する病院は3病院、高度救命救急センターを有する病院は1病院で、ともにその条件を満たすのは当院だけになります。当院は、今では十数名の救命救急医を有する日本を代表する高度医療を提供する急性期の病院にまで成長しました。当院の成長に高山先生が深くかかわっていただいたことにも深く感謝しています。

「私の原点」に書かれてあるように、高山先生は、救急医療、離島医療、人材育成に一貫

して関わってこられたと思います。今回の教授御就任は、高山先生が今までかかわってこられたこれらの仕事の節目でもあると推察しています。高山先生の今後のご活躍に多くの方が期待を寄せられていると思います。引き続き、高山先生とともに長崎県の医療を支えてゆくことができればと考えています。今後とも宜しくお願い致します。

国立病院機構長崎医療センター 院長 八橋 弘

高山先生、特任教授就任おめでとうございます

高山先生、このたびの長崎大学病院地域医療支援センター特任教授への御就任、誠におめでとうございます。

長崎県医学修学生、長崎県離島医療圏組合（現長崎県病院企業団）所属外科医、長崎医療センター救急医と、私自身の医師としてのキャリアは、まさしく高山先生の背中を追わせていただいたといっても過言ではないかと思えます。

初めてお会いしたのは 1996 年高山先生が救急医として長崎医療センターに赴任された年であったと記憶しています。その時、私は研修医でしたが、長崎県における救急医療改革のスタートを感じた瞬間でした。その後 2001～2003 年、2006～2015 年において高山先生の下、救命救急センターに勤務させていただき、たくさんの学びと研鑽をさせていただきました。一人の医師が、生涯かけて救える命には、おのずと限界がありますが、教育ならびに組織的対応を構築することで、広く救急医療を提供、結果としてより多くの命を助けることが出来ることを、複数の場面・領域で勉強させていただきました。

2016 年からは高山先生の後任として現職についていますが、臨床 1 例 1 例のミクロ的視点、組織的対応のマクロ的視点の仕事の両立に苦慮しており、改めて高山先生の偉大さを痛感している次第です。

地域医療と救急医療は連動して考慮することも多々あります。まさに高山先生が培われた能力と人脈がいかに発揮できるフィールドと推察いたします。これからも第一人者としてのご活躍祈念しております。私もその一助となるよう努めていく所存ですが、相談させていただく場面も多々あるかと思えます。ご多用とは存じ上げますが、引き続きご指導の程よろしく願いいたします。

国立病院機構長崎医療センター 高度救命救急センター長 中道親昭

高山先生、長崎大学の特定教授就任おめでとうございます

これまで高山先生は、長崎医療センターの救命救急センター長として、センターの運営はもちろん、多くの救急医を育ててこられ、県内随一の救命救急センターに育てられてきました。7年前にこの功績をなげうって、長崎地域人材支援センターの仕事をするため、長崎大学に異動されました。その英断に敬服していました。今回、見事に教授就任となられたのは、ひとえに高山先生の努力のたまものであると確信しています。今後とも益々長崎県の特に離島およびへき地の医療人材支援の仕事が、順調に行われることを祈念したいと思います。

長崎県病院企業団 企業長 米倉正大

高山先生へ

教授ご就任おめでとうございます。先生のこれまでの経緯を拝見させていただきました。これまで、長崎医療センターや離島で苦楽を共にした皆さんも大変喜ばれると思います。

今後、先生は病院企業団に関わる医師にとっても、素晴らしい目標になると思います。今後のご発展と活躍を楽しみにしています。ところで、先生が冒頭に書かれた、心臓外科の研修ですが、その時に指導された松尾和彦先生は現役で、現在私と同じ職場の老健「恵仁荘」の施設長をされています。高山先生の教授就任のお話をしたところ、メッセージをいただきました。

和光会 恵寿病院院長 中原賢一

高山先生へ

長年の先生の苦勞と努力が実って、今回の教授ご就任、心からお祝い申し上げます。上空を飛ぶドクターヘリを見るたびに高山先生が乗っているかもしれないと思って、いつも先生の活躍と安全を祈っていました。また仕事の合間に無謀にもテニス部出身の先生に挑戦して、途中までいい気分をさせてもらい、最後には結局あっさりひねられていたのも楽しい思い出です。これからの先生の更なる活躍を期待しています。

和光会 老健「恵仁荘」施設長 松尾和彦

長崎大学病院地域医療支援センター特定教授へのご就任を祝す

この度の長崎大学病院特定教授にご就任されたとお知らせを受けました。誠におめでとうございます。

先生は約20年間長崎医療センターの救急医療の発展に尽くされてこられました。その功績等が高く評価され、この度のご昇進かと思えます。その足跡は長崎医療センターの医療の歴史の一部でもあり、センターの救急医療が今日あるのも先生のご貢献もあったからだと思っております。こうした先人の努力の蓄積が実ってきたということは現職の医療人にとっても、私達OBにとっても誇らしいことであり、ぜひ先生の過去の活躍のドキュメントストーリーを残して頂きたいと、お願いしたところ、この要望に早速応えていただきました。

年度末のお忙しい中、素晴らしいドキュメント「私の原点」をお寄せいただき、感動しております。長崎医療センター出身の、先生のような医師の語る言葉を聞くと非常に嬉しくなります。医療は様々な医学と行政等の相互連携によって、またそこで働く医師が普段に高みを目指す過程で発展してゆくことを如実に語って頂いたような気がいたします。

どうもありがとうございました。

国病久原会 会長 廣田典祥